

豊田教授の現代日本の婚活論！

●全員参加の「おもてなしの会」その2

総会後の講演は、現在・立教大学観光学部教授で25回生が送るホープ**豊田由貴夫さん**でした。

* *

◆**略歴**：東京大学理科一類へ入学後、東京大学教養学部教養学科（文化人類学）卒業。その後、東京大学大学院社会学研究科博士課程修了。オーストラリア、シドニー大学人類学部への留学後、亜細亜大学国際関係学部助教授、立教大学文学部教授などを経て、現在に至る。専門は文化人類学で、パプアニューギニアを中心とする南太平洋地域で近代化の影響や経済開発の可能性などを研究してきた。この他にディズニーランド研究や、睡眠を文化の面から研究することも行っている。

* *

◆**浦高生よ、女性にやさしくなろう**
～現代日本の「婚活」論～

最初にタイトルについて説明させていただきます。「浦高生」というのは広い意味で使ってしまして「浦高関係者」というような意味です。ですから今日ここに来ている方も含まれているとお考えください。また「女性にやさしくなろう」というのも広い意味にとっていただいて、「女性と仲良くなろう」ぐらいの意味だとお考えください。ただしタイトルとして「女性と仲良くなろう」とすると変に誤解されることもあるので（会場笑い）、「女性にやさしくなろう」としました。「やさしくしよう」ではなくて、「やさしくなろう」としたのは、単なる行為ではなくて状態を示しているとお考えください。

* *

◆**ミッションは講演者を探すことから始まった！**

それから今日私は講演をしています、私の最初の

役割は講演者をするのではなくて、幹事会のメンバーとして講演者を探すことでした。講演者の候補として、ここに示したよ

うな人たちを考えていました。伝統的に浦高の講演会では理科系の人が多いので、今回は文系にしようということを幹事会の基本方針として考えていました。最初に書いてある田中明彦は現在 JICA の理事長をしている人物です。実は私は彼を推薦したのですが、幹事会の中では「話がかたい」ということで決まりませんでした（会場笑い）[実際には「話が面白くない」と言っただけこれはオフレコ]。田中さん、今日は来ていないですよ（会場笑い）。

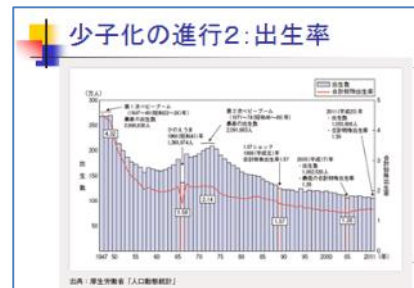
講演の他の候補者

- 田中明彦(国際政治学者、現JICA理事長)
- 長沼明(元志木市長、浦和大学客員教授)
- 藤江昌嗣(経営統計学、現明治大学副学長)
- 服部文昭(京大教授、言語学)
- 小川栄一(武蔵大学教授、日本語学)
- 医療関係者
- 中里実(東大教授、財政学、現政府税制調査会会長)
- ...

それから中里実というのがいます。現在、政府の税制調査会の会長をやっています。我々と入学は同じですが、アメリカに1年留学していたので、卒業は1年あとです。彼も候補者の1人でした。いろいろ協議したのですが、硬いテーマよりも柔らかくて面白いのがいいだろうということになり、最終的に幹事会からは「お前やれ」ということで、私が担当することになったというわけです。

* *

◆**人口減少社会・少子化の中で**



それでは今日のお話ですが、皆さんご存じのように、日本では少子化という現象が進行しています。人口は徐々に減り始めています。2055年には日本の人口は9千万を割るだろうと言われていています。人口が減ること自体は悪いことばかりではありませんが、若い人が少なくなるのは、社会にとっては困ることになります。その原因は子供が生まれにくい、つまり出生率が下がっているということになります。この図で見るように、出生率はどんどん下がってきていて、今では1.3程度です。そして子供が生まれにくいのは、結婚する人が少なくなってきた

からです。もちろん結婚をしなくても、事実婚などで子供を産んでもいいのですが、日本では非嫡出子に対して社会的な差別がありますし、行政の対応も十分ではないので、非嫡出子はあまり増えないと予想されています。そうすると、人口を増やすには、結婚を増やすのが実質的な手段となるわけです。

逆に言えば日本は結婚する人が少ないので、人口が増えていないということになります。

どのくらい結婚していないのかをグラフで見てください。これは結婚していない人の年齢別の割合を示しています、それがどのように変化してきたかを示したものです。まず男性ですが、今から約50年前の1960年頃には、25から29歳では結婚していない人は半分弱です。つまり半分以上の男性が30歳前に結婚しているというわけです。30から34歳ではほぼ9割の人が結婚します。35から39歳で結婚していない人は4%ぐらいです。これが2010年になると25から29歳で結婚していない人が7割以上になります。35から39歳でも結婚していない人は3分の1以上になります。女性も同じような傾向です。約50年前、25から29歳の女性で結婚していない人は2割程度です。つまり8割の女性は30歳前には結婚していたのです。これが現在ですと25から29歳で結婚していない人は約6割になります。ですから結婚していない人がどんどん増えているのがわかります。



そして生涯未婚率というデータがあります。一生結婚しない人の割合ということです。ここには結婚して離婚した人の割合は含まれていません。今から50年ほど前は、この割合は1%台でした。ほとんどの人が結婚していたということです。ところがグラフを見ていただくとわかりますが、現在では男性の5人に1人が一生結婚しません。女性の10人に1人が一生結婚し

男女とも結婚したいと思っている

図2-1 独身者の結婚意志 (%)

〔男性〕		%					
生涯の結婚意志		1982	1987	1992	1997	2002	2005
いずれ結婚するつもり		95.9	91.8	90.0	85.9	87.0	87.0
一生結婚するつもりはない		2.3	4.5	4.9	6.3	5.4	7.1
不詳		1.8	3.7	5.1	7.8	7.7	5.9
標本数(人)		2,732	3,299	4,215	3,982	3,897	3,139
〔女性〕		%					
生涯の結婚意志		1982	1987	1992	1997	2002	2005
いずれ結婚するつもり		94.2	92.9	90.2	88.1	88.3	90.0
一生結婚するつもりはない		4.1	4.6	5.2	4.9	5.0	5.6
不詳		1.7	2.5	4.6	6.0	6.7	4.3
標本数(人)		2,110	2,665	3,647	3,612	3,494	3,064

- 結婚の現状: 晩婚化と非婚化
- 結婚年齢がばらついているなかでの「晩婚化」が進行している
 - 生涯結婚しない「非婚化」が進行している
- 2030年には男性の3人に1人、女性の4人に1人が、生涯非婚者となる

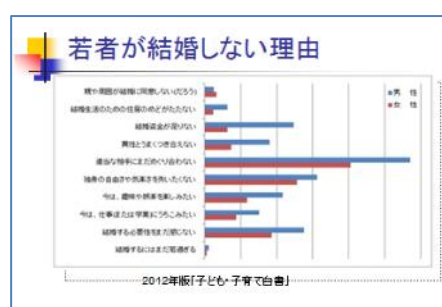
ません。そしてグラフでわかるように、この割合はどんどん上がっています。今から15年後の2030年には、男性の3分の1、女性の4分の1が一生結婚しないと言われています。

それでは、みんな結婚したくないのかというと、そんなことはないのです。これは独身者に結婚の意思を聞いた調査結果です。多少下がってきていますが、およそ9割の人がいずれ結婚するつもりだと答

えています。男性も女性もほぼ同様です。それなのに結婚しないという現象が生じているのです。

* *
◆晩婚化と非婚化

現在の結婚をめぐる状況では、2つの現象が生じていると言われています。一つは晩婚化、もう一つは非婚化です。まず結婚年齢はばらついているのですが、そのなかで平均すると結婚年齢が遅くなっているという「晩婚化」が進行しています。若くて結婚する人も一定数います。でも平均すると結婚の年齢はどんどん上がってきているのです。もう一つは生涯結婚しない「非婚化」が進行しています。「未婚」というと未だに結婚していないということですが、一生未だに結婚していないというもおかしな表現なので、「非婚」という用語を使うようになっていきます。先ほども言いましたが、2030年には男性の3人に1人、女性の4人に1人が、一生結婚しないと言われています。私は自分の大学で言っています。君たち男子学生の3人に1人は一生結婚しない。女子学生の4人に1人は一生結婚しない、と。



それでは本人たちになぜ結婚しないのかと聞いてみると、どういいう答えが返ってくるのかを示したのがこの図です。複数回答で%表示をしてあります。男女とも一番多いのが、「適切な相手にまだめぐりあわない」という答えです。男性では6割弱、女性で4割がこう答えています。重要なのは、「まだ」という点で、そのうちめぐりあえると思っているのです(会場笑い)。次に多いのが、「独身の自由さや気楽さを失いたくない」という答えです。男女で差が大きいのが「結婚資金が足りない」という回答です。男性は4人に1人がこう考えていますが、女性はあまりこれを気にしていません。これは、男性は妻子を養うべきだという考え方があるからだろうと推察されます。

このような状況で、数年前に「婚活」という言葉が流行りました。流行らせたのは山田昌弘という社会学者と白川桃子という人です。『婚活』時代」という本を書いて話題になりました。この2人の主張したことは、まず現在の若者を困む状況は、結婚をしにくい状況であるということです。

- 婚活推奨論(山田・白河2008)
- 現在の若者を困む状況は、結婚をしにくい状況である
 - 結婚をするためには、強く意識し、そのための活動をしなければならぬ
- =「婚活」

このような状況で、数年前に「婚活」という言葉が流行りました。流行らせたのは山田昌弘という社会学者と白川桃子という人です。『婚活』時代」という本を書いて話題になりました。この2人の主張したことは、まず現在の若者を困む状況は、結婚をしにくい状況であるということです。

そしてだからこそ、結婚をするためには、強く意識し、そのための活動をしなければならないのだということです。その活動というのが「婚活」だ、ということです。

* *

◆結婚しにくい状況

結婚をしにくい状況というのはどのようなことなのかというと、2つ挙げられます。

一つは、待っていても理想的な結婚相手は現れないということであり、もう一つは妻子を養える男性が激減

しているということです。一つずつ説明します。

一つ目の、待っていても理想的な結婚相手は現れないということですが、どのように説明できるでしょうか。まず、近代社会は選択肢が増える社会であるということです。そして、自分の選択肢が増えることは、他人の選択肢も増えることです。そうするとその結果、競争が発生します。競争が発生する結果、「選択できない可能性」が増大することになるというわけです。結婚も同じであろう、あるいはそれ以上であるということです。結婚は自分が選択すると同時に、相手もまた自分を選択してくれなければなりません。ですから選択できない可能性は二重に高くなるというわけです。

もう一つは妻子を養える男性が激減しているということです。これは皆さんご存じのように、現在、若年男性の非正規雇用が増大しています。給与が低いです。そして収入が年功序列で増加しないということがあります。また雇用が安定しません。いつリストラされるかわからないということです。このような状況では人生設計はできません。結婚に至るのが難しいということになります。

これははっきりと統計資料で示すことができます。この図は就労形態別に結婚の割合を示したものです。この図で見ていただくとわかるように、正社員つまり正規雇用者は結婚する割合が年齢とともに上がっていき、30から34歳になると6割近くが結婚します。しかし非正規雇用の場合、つまりアルバイトやパート、派遣社員、嘱託となるとこれが1割台から2割台にとどまるのです。ですから経済的な要因が結婚にいかに関連しているかがわかるかと思えます。

結婚しにくい状況

- 待っていても理想的な結婚相手は現れない
- 妻子を養える男性は激減している

待っていても理想的な結婚相手は現れない

- 近代社会は選択肢が増える社会である
- 自分の選択肢が増えることは、他人の選択肢も増えることであり、競争が発生し、「選択できない可能性」が増大する
(『ウーマンリキッド・モダニティ』大月書店,2001)
- 結婚も同じである、あるいはそれ以上？

妻子を養える男性は激減している

- 若年男性の非正規雇用が増大
- 収入が年功序列で増加しない
- 雇用が安定しない

ここで具体的に、女性から男性への経済的な期待を見てみたいと思います。もちろん結婚は経済的な要因ばかりではありませんが、経済的要因は決して無視できないものです。女性を対象にして調査を行うと、未婚女性の約40%が、結婚相手に年収600万円以上を期待するというデータがあります。ここで注意して欲しいのは、彼女たちは決して玉の輿に乗ろうとか、金持ちと結婚したいとか考えて、このような数字を言っているわけではありません。ごく「普通の」人でいいといいます。普通の人というのが、経済的な指標にすると年収600万円ということになるのです。

* *

◆未婚男性で収入600万円以上の割合？

それではここで皆さんに問題を出したいと思います。考えてみてください。未婚女性の約40%が、結婚相手に年収600万円以上を期待するというのですが、ではそれに該当する男性はどれくらいいるのだろうか、という問題です。問題をはっきりさせるために対象年齢は25歳から39歳までとします。これは女性から見て結婚の対象として適切な年代と考えていいと思います。そしてこの年代の未婚男性で年収600万円を得ている人の割合はどれくらいか、という問題です。皆さん、どうでしょうか。今日、時間が十分あれば、私はこの壇上から降りて行って、何人かの方に聞いてみたいのですが、今日は



女性から男性への経済的期待

- 未婚女性の40%が年収600万円以上の男性と結婚したいと考えている(東京の場合)

未婚男性で収入600万円以上の割合？

- 25歳から39歳までの未婚男性で、収入が600万円以上の人の割合は？
- 約3.5%(2008年、東京の場合)
- 約5.7%(2010年、東京の場合)

時間がありませんので、答えを言ってしまう。答えは3.5%です(会場どよめき)。これは2008年の東京の場合です。これが2010年になると5.7%となり、少し増えます。しかしこれはおそらく経済格差が大きくなったせいだと考えられ、決して状況が好転したかどうかはわかりません。こういう状況ですから、みんな結婚するわけではないのです。男性から見て倍率は約十倍になってしまうのです。

* *

興味深い話の途中ですが、紙面容量の関係でちょっと休憩タイムです。 <つづく>